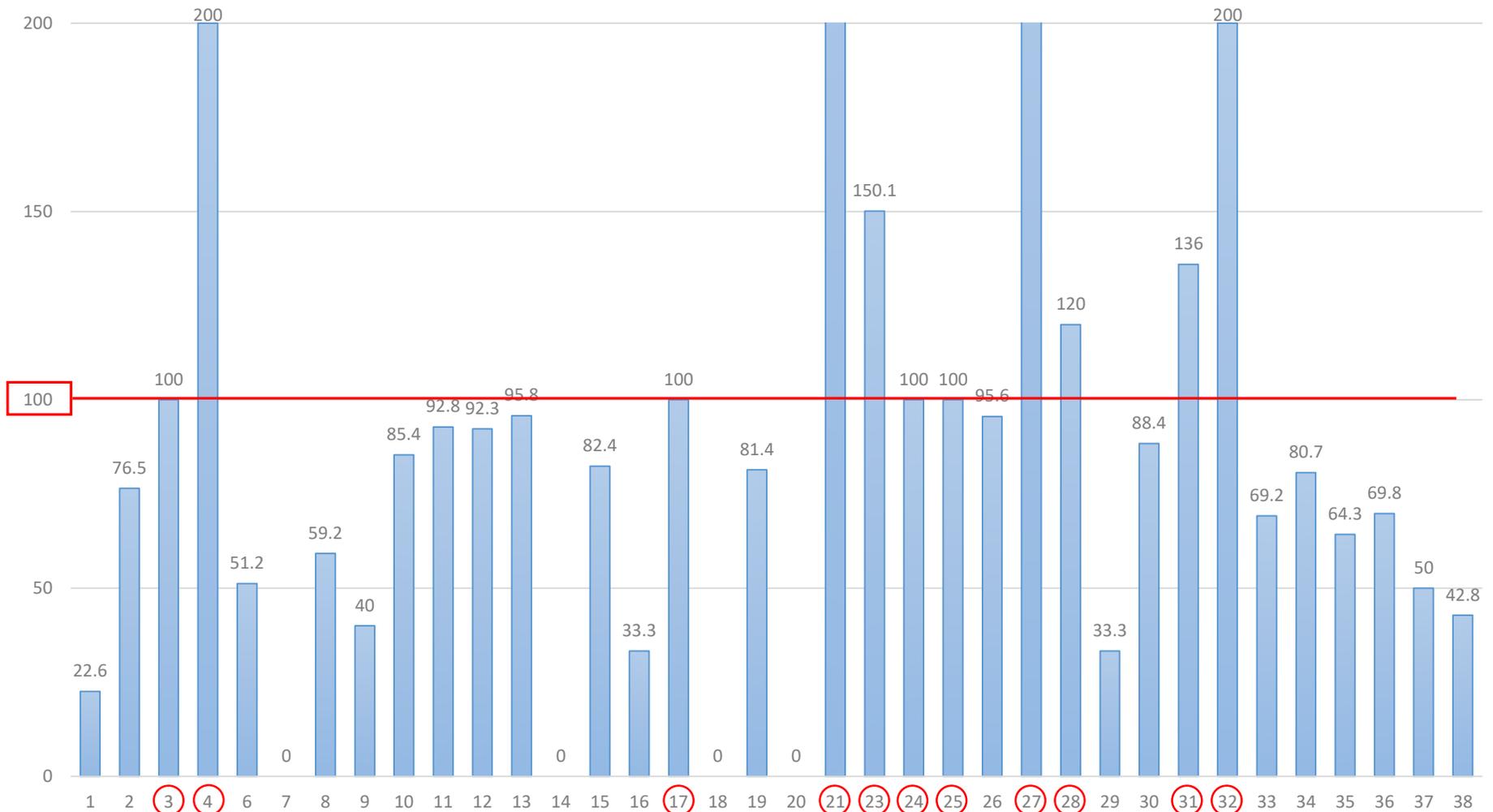


豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略
数値目標・KPI達成状況等について

(1) 目標値に対する達成度



※No.5は現状値の集計ができないため除外， No.22は現状値が12月発表のため除外

「現状値＝目標値」となっているものを100とした場合の達成度
(目標達成 36件中 11件)

(2) 目標値を達成した項目

連番	基本目標	基本施策	指標名	単位	基準値	目標値	現状値	達成度
3	1	1	空き家流通活動拠点数	施設	0	1	1	100.0
4	1	1	多様化に資する住宅に関する整備提案件数	件	0	3	6	200.0
17	2	2	待機児童数	人	0	0	0	100.0
21	2	3	女性を対象とした創業・起業支援件数	件	-	1	3	300.0
23	3	1	地域資源を活用したイベント等への参加者数	人	9816	15,000	22,516	150.1
24	3	1	観光振興等に関する地域の関係者が連携し、戦略的に事業を行う新たなテーブルの設置	組織	-	1	1	100.0
25	3	2	農業法人数	法人	0	1	1	100.0
27	3	2	特産品を使用した新規商品の開発数	商品	0	3	8	266.6
28	3	3	創業・起業支援件数	件	-	5	6	120.0
31	4	1	高齢者見守りネットワーク事業登録団体	団体	17	25	34	136.0
32	4	1	産官学連携による介護予防・健康増進事業数	事業	0	1	2	200.0

- ◆ 基準値より上昇(改善)したものは16項目あり、そのうち目標値を達成したのが10項目
- ◆ 現状維持の目標を達成したものは1項目
- ◆ 高齢者に関する2項目(No.31, 32)以外は地方創生推進交付金の対象となっている

(3) 基準値より下降(悪化)した項目

連番	基本目標	基本施策	指標名	単位	基準値	目標値	現状値	達成度
2	1	1	空き家率	%	8.96	8.96	11.70	76.5
6	1	2	移住促進に関するホームページ「とよのに住もう」の閲覧件数	件	3,185	4,800	2,459	51.2
8	1	3	バスや鉄道などの公共交通機関が充実していると思う住民の割合	%	44.5	55.0	32.6	59.2
10	2	1	全国学力学習状況調査の全国平均点を100とした時の割合(小国語A)	%	100.9	110.0	94.0	85.4
11	2	1	全国学力学習状況調査の全国平均点を100とした時の割合(小算数A)	%	108.2	110.0	102.1	92.8
12	2	1	全国学力学習状況調査の全国平均点を100とした時の割合(中国語A)	%	108.6	110.0	101.6	92.3
13	2	1	全国学力学習状況調査の全国平均点を100とした時の割合(中数学A)	%	114.4	110.0	105.4	95.8
16	2	2	地域子育て支援拠点	箇所	2	3	1	33.3
30	4		これからも豊能町に住み続けたいと思う住民の割合	%	66.7	75.0	66.3	88.4
33	4	1	高齢者が生きがいをもち、健康に暮らせる環境だと思ふ住民の割合	%	47.7	65.0	45.0	69.2
34	4	2	自治会加入率	%	79.8	90.0	72.7	80.7
36	4	2	地域行事・活動が活発に行われていると思う住民の割合	%	61.2	80.0	55.9	69.8
38	4	3	町有施設の長期的なマネジメントにかかる計画の策定数	計画	4	7	3	42.8

◆ 基準値より下降(悪化)したものは13項目

◆ 定住促進や住民満足度にかかわる項目の状況が悪化している

(4) 数値に変化がなかった項目

連番	基本目標	基本施策	指標名	単位	基準値	目標値	現状値	達成度
7	1	3	新規バス系統の開設数	系統	-	2	0	0.0
14	2	1	子どものための「つどいの場」	箇所	0	2	0	0.0
17	2	2	待機児童数	人	0	0	0	100.0
18	2	2	保護者のための「つどいの場」	箇所	0	2	0	0.0
20	2	3	病児病後児保育事業	箇所	0	1	0	0.0
26	3	2	認定農業者数	人	22	23	22	95.6
37	4	3	広域で相互利用が実現している公共施設数	施設	1	2	1	50.0

◆ 基準値から変化がない(現状維持)ものは7項目

◆ 「待機児童数」に関する項目は現状維持の目標を達成している

◆ 「つどいの場」や「病後児保育」は施設と人的の両面に問題があり困難であった

(5) 総括と今後の方針

基本目標 1

若年層が選びやすい環境をつくる

- 移住や空き家の流通促進ワンストップ窓口として「住まいの相談窓口」を設置し、空き家をはじめとする既存住宅ストックの円滑な流通を進めてきました。また、土地価格の下落が続いていることもあり、若年層にも住宅を購入しやすい状況となっています。新築家屋も毎年30棟程度は建っており、子育て世帯の転入もみられます。しかし、依然として20代の社会減（転出超過）が大きく、アンケート結果でも18歳～39歳の半数以上が転出したいと回答しています。
- 積極的にシティプロモーションを行ってきたことで、ブランドメッセージの策定やトヨノレポートによる情報発信など一定の成果は出ています。しかし、その資産を活用した展開が不十分であり、豊能町を移住先に選んでもらうための仕掛けづくりができていません。
- **移住促進や関係人口の創出に関する施策を重点的に取り組んできましたが、今後は若年層の定住率をあげるため、「若年層にとって魅力的なまち」を意識した施策にも取り組んでいく必要があります。**

基本目標 2

「住みたくなる」子育て環境をつくる

- 教員の配置や学校の存続問題などに対する不安感が、「学校教育が充実していると思う住民の割合」に数字として表れています。また、全国学力学習状況調査の結果は概ね全国平均を上回っていますが、5年前に比較すると低下がみられます。
- 子育て世代包括支援センターを設置し、子育てへの不安や負担など、ケースに応じた相談を行うことで、安心して出産・子育てできる環境づくりを行いました。
- トヨノドリームに女性活躍枠を設けることで、子育てしながらでも仕事をしたいという希望を持つ女性の、創業・起業支援が行える体制を整えました。
- **子育て環境の充実が若年層の定住促進に最も効果があることから、さらに子育て環境の充実を図っていきます。また、児童・生徒が落ち着いて学習できる小中一貫校を創設し、豊能ならではの教育を進めることで、「住みたくなる」「住み続けたい」魅力の創造につなげていきます。**

(5) 総括と今後の方針

基本目標 3

地域の資源をしごととお金にかえる

- 観光の中心である吉川地区・高山地区と、農業の中心となる志野の里が連携した取り組みを進めることで、町への訪問者は確実に増加しています。また、地域資源を活用したオーベルジュやカフェなどもオープンし、人と人が集う場所ができつつあります。さらに、家具工作所が町内に移転してくるなど、「地域のしごとづくり」も進んでいます。
- 1件の農業法人が設立され、地域による農業の活性化に向けた取り組みが始まりました。また、町内での販路として「志野の里」を開設し、ヤーコンを利用した独自商品も開発するなど、農産物の6次産業化・ブランド化が進んでいます。さらに、就農支援塾の取り組みも継続しており、農業者の拡大に向けた取り組みも着実に実行しています。
- **農×観光戦略の取り組みは、確実に効果が出始めています。今後も、創業・起業支援や農業法人設立支援をはじめ、農業と観光の連携を図りながら、町の資源を活かした観光振興やしごとづくりに取り組んでいきます。**

基本目標 4

避けることができない未来にそなえる

- 「これからも豊能町に住み続けたいと思う住民の割合」は10年前とほぼ同じ66.3%ですが、65歳以上に限ると74%以上の方が住み続けたいと回答しています。
- 地域包括ケアシステムを推進する中で、地域で高齢者を見守るという機運が非常に高まっています。また、保健指導や予防事業についても、大阪大学との共同研究として地域特性を踏まえた取り組みを実施することができました。
- 自主防災組織や消防団により災害時への対応は進んでいます。しかし、アンケート結果でも6割以上の方が地域活動には参加していないと回答しており、高齢化とともに地域のコミュニティ力は低下しています。
- 町有施設に関する長期的なマネジメントは進んでいません。
- **今後ますます高齢化が進んでいくことから、引き続き持続可能なまちの基盤整備と、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいきます。**